

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	千葉明德短期大学	学部・学科名 ※	保育創造学科
科目名 ※	教育原論	単位数 ※	2
開講学期 ※	2024年度前期	曜日・時限 ※	木曜日・1限
キャンパス ※	千葉明德短期大学	教室 ※	232AB
学修分野			
授業目的 ※	幼稚園教諭免許状必修教育の基礎的理解に関する科目 保育士資格必修保育の本質・目的に関する科目		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな教育という働きについて理解し、説明できる。 ・教育に関する思想や法的・制度的仕組みについて理解し、説明できる。 ・身近にある様々な教育の問題に興味を持ち自分なりの見解を持ち、説明できる。 		
授業内容	教育というと学校での教育をイメージしやすいと思いますが、教育＝学校ではありません。学校は「教育」のある部分を担ってはいますが、私たちは学校だけで成長しているわけではありません。この授業ではまず、学校以外での教育を考えます。そして、教育についての基礎的な理論・思想・制度等を学びつつ、今日の学校というシステムを見つめ直し、人が一人前の人間へと育てていくということの本質を考えていきます。それは、幼児教育や保育の考え方の理解へと繋がっていくと思います。		
授業形態 ※	講義		
評価方法 ※	<ul style="list-style-type: none"> ・小レポート - 20% ・小テスト - 30% ・期末レポート - 50% 		
評価基準			
テキスト			
注意事項			
授業シラバス	第1回 オリエンテーション 教育とは何か 第2回 なぜ教育が必要か 第3回 日々の生活の営みにある教育① 家庭・地域がもっていた教育力 第4回 日々の生活の営みにある教育② 子どもの遊び集団がもっていた教育的機能 第5回 人が育つ環境としての現代社会の課題（家庭・地域・社会） 第6回 近代公教育制度の成立と今日の学校の理念 第7回 今日の教育制度・保育制度とその課題 第8回 教育改革の動向と諸外国の教育事情 第9回 学校と地域の連携 第10回 近代教育思想の歴史 第11回 子ども観と教育思想 第12回 幼稚園教育要領・保育所保育指針の考え方と方法 第13回 生涯学習社会と教育 第14回 安全教育と危機管理 第15回 現代教育の諸問題／総まとめ		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	千葉明德短期大学	学部・学科名 ※	保育創造学科
科目名 ※	社会福祉	単位数 ※	2
開講学期 ※	2024年度前期	曜日・時限 ※	木曜日・1限
キャンパス ※	千葉明德短期大学	教室 ※	221
学修分野			
授業目的 ※	社会福祉主事任用資格選択必修 保育士資格必修 保育の本質・目的に関する科目		
到達目標	1. 社会福祉の意義・理念及び歴史的変遷などを説明できる。 2. 社会福祉の制度、実施体制等を理解して説明できる。 3. 社会福祉における相談援助の基本姿勢と利用者の権利擁護に関わる仕組みを理解して説明できる。 4. 少子高齢化に関わる社会福祉の動向と課題等を理解して実際の保育業務に活用できる。		
授業内容	本授業は、保育者の基礎知識として社会福祉の意義・原理、日本の福祉制度の変遷を振り返り、現行の制度と課題等を理解する。 また、都市化近代化、地縁血縁関係の脆弱化による家族機能・地域の変化のため、福祉のあり方はより重要性を増しており、公的扶助（生活保護）、障害福祉、子ども家庭福祉、高齢者福祉などの概要と課題などを考える。 なお、授業の進捗状況などにより、若干、授業計画は前後することもあり得る。		
授業形態 ※	講義		
評価方法 ※	・ 授業態度、参加意欲（課題提出期限厳守）—20% ・ 期末試験—60% ・ 課題—20%		
評価基準			
テキスト			
注意事項			

授業シラバス	第1回 社会福祉の基本理念と概念
	第2回 社会福祉と少子高齢化を巡る問題
	第3回 日本の社会福祉発達史
	第4回 社会保障制度と社会保険
	第5回 障害児（者）の自立と福祉Ⅰ 障害者スポーツ大会
	第6回 障害児（者）の自立と福祉Ⅱ 共生社会の実現と施策
	第7回 社会福祉の制度Ⅰ 社会福祉法制－制度と法体系－
	第8回 社会福祉の制度Ⅱ 社会福祉行財政と実施機関
	第9回 社会福祉施設と専門職
	第10回 社会福祉における相談援助－意義・機能・方法と技術－
	第11回 生活保護
	第12回 社会福祉と子ども家庭支援
	第13回 権利擁護と苦情解決、情報提供、第三者評価
	第14回 期末テスト及び授業全体の振り返り
	第15回 期末テストの解説及び、地域福祉の意義・課題

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	東京情報大学	学部・学科名 ※	総合情報学部・総合情報学科
科目名 ※	ソフトウェア工学 a	単位数 ※	2
開講学期 ※	2024年度前期	曜日・時限 ※	木曜・1限
キャンパス ※	東京情報大学	教室 ※	1号館3階301
学修分野			
授業目的 ※	ソフトウェア工学の基本的な考え方と知識を体系的に学び、「安心・安全」なソフトウェアを設計・作成・保守する力を強化することを目的とする。ソフトウェア開発プロセス、ソフトウェアライフサイクル、プロセスの標準化、要求分析からテスト工程・保守まで一貫した流れを学ぶ。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ソフトウェア開発におけるソフトウェア工学の役割を理解する ・ソフトウェアの性質、開発の課題を理解する ・ソフトウェア開発プロセス・ライフサイクル・モデルを理解する ・基本的なソフトウェア開発のモデルとしてウォーターフォール型開発について理解する 		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. ソフトウェア工学の目的と発展史 3. ソフトウェアの開発方式 4. 要求分析と要求仕様書 5. 外部設計と外部仕様書 6. 内部設計と内部仕様書 7. 製造と試験 8. 要求分析の技法 9. 設計の技法 10. 製造の技法 11. オブジェクト指向設計 1 12. オブジェクト指向設計 2 13. オブジェクト指向設計 3 14. 総合演習 15. 総まとめ 		
授業形態 ※	講義形式で実施するが、必要に応じて演習課題を課す。		
評価方法 ※	課題、レポート、平常試験		
評価基準	<p>課題（講義中に必要に応じて課す課題） 20%</p> <p>レポート（2回のレポート課題） 10%</p> <p>平常試験（筆記および実技形式による試験を実施する） 70%</p>		
テキスト	<p>テキストはありません。</p> <p>資料は適宜公開します。</p>		
注意事項			

授業シラバス	シラバス検索ページ https://j-port.tuis.ac.jp/uprx/up/pk/pky001/Pky00101.xhtml?guestlogin=Kmh006 ※開講年度学期（2024後期）、授業科目「コンピュータグラフィックス基礎」で検索
--------	--

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	神田外語大学	学部・学科名 ※	外国語学部
科目名※	中国社会研究Ⅰ	単位数 ※	2
開講学期※	2024年度前期	曜日・時限 ※	木曜日 2時限
キャンパス※	幕張キャンパス	教室※	未決定
学修分野			
授業目的※	<p>① 授業のテーマと概要 この講座では、中国の名作映画、「生きる」（カンヌ国際映画祭受賞作品）と「あの子を探して」（ベネチア映画祭受賞作品）の二本の映画を通して、中華人民共和国の紆余曲折した政策の変遷がどのように社会に影響を与えその発展を阻んできたのか、中国社会の変遷の特質をリアルに捉えることができると同時に、改革開放政策の光と影も学ぶことができる。</p> <p>② 授業の目的と到達目標 学生が中華人民共和国の成立以降、党の政策の変化に伴い中国社会がどのように変化してきたかについてその特質について理解を深めることを目指す。学生が政治と社会の関りについて考え議論することで分析力と批判的思考を身に付けることを目指す。(DP3)</p>		
到達目標			
授業内容	<p>第1回講義概要と授業の進め方 第2回映画「生きる」（1）チャプター1から6 —旧社会から社会主義社会へ— 第3回映画「生きる」（2）チャプター7～11 —大躍進政策期の総動員と人々の生活— 第4回映画「生きる」（3）チャプター12～14 —文化大革命期の社会と人々の生活— 第5回映画「生きる」（4）チャプター15～18 —文化大革命が社会に残したもの— 第6回映画「あの子を探して」（1）チャプター1～8 —改革開放政策課の貧困村の教育現場— 第7回映画「あの子を探して」（2）チャプター9～16 —失学児童の発生と集団意識— 第8回映画「あの子を探して」（3）チャプター17～22 —改改革期の都市における子供の就労— 第9回映画「あの子を探して」（4）チャプター23～28 —マスメディアの力と社会の善意— 第10回映画を通して中国社会を学ぶということ 第11回アクティブラーニング（課題発見） 第12回アクティブラーニング（リサーチ） 第13回リサーチ結果と発表（1） —第1グループの発表とディスカッション—</p>		

授業内容	第14回リサーチ結果と発表（2） —第2グループの発表とディスカッション—
授業形態※	第15回まとめとレポートに対する講評 対面
評価方法※	課題への取り組み20%、授業への貢献度30%、レポート50%
評価基準	
テキスト	
注意事項	この表はシラバス情報の一部となります。履修を検討される方は、必ず本学のホームページ上（https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/target/student/）からシラバス検索で該当科目を確認をしてください。
授業シラバス	

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	神田外語大学	学部・学科名 ※	外国語学部
科目名 ※	スペイン語音声学Ⅰ	単位数 ※	2
開講学期 ※	2024年度前期	曜日・時限 ※	木曜日 2時限
キャンパス ※	幕張キャンパス	教室 ※	未決定
学修分野			
授業目的 ※	<p>本授業では、まず、スペイン語の調音音声学を学ぶ。日本語の調音器官、調音点、及び調音法の用語も学ぶ。英語、日本語の音の違いも指摘する。次に、スペイン語の単語は次の音と一緒に発音されることが多いので（いわゆるリエゾンという現象）、これに慣れるためにスペイン語会話を聞き取って書く、即ちディクテーション（dictado; dictation）を行う。</p> <p>スペイン語音声学に関する豊かな知識と高度の運用能力を身につけるとともに、スペイン語のさまざまな音声事象についての理解を深めることを目指す。こうしたスペイン語音声学の基本的知識は、スペイン語教育にも欠かすことができないだろう。</p>		
到達目標			
授業内容	<p>第1回オリエンテーション（授業の目的・進め方について） 概論：音声学とは</p> <p>第2回調音器官、発音記号（IPA）、母音と子音、有声性（有声/無声）と調音点と調音法</p> <p>第3回スペイン語の母音、音節、アクセント</p> <p>第4回スペイン語の子音：北部体系とS音体系 閉鎖音：無声両唇音[p]と有声両唇音[b]、有声両唇摩擦音[β]</p> <p>第5回閉鎖音：無声歯(裏)音[t]と有声歯(裏)音[d]、有声歯(裏)閉鎖音[ð]</p> <p>第6回閉鎖音：無声軟口蓋音[k]と有声軟口蓋音[g]、有声軟口蓋摩擦音[ʎ]</p> <p>第7回摩擦音：無声唇歯音[f]と無声歯間音[θ]</p> <p>第8回摩擦音：無声歯茎音[s]と有声歯茎音[z]</p> <p>第9回有声硬口蓋破擦音[dʎ]と有声硬口蓋摩擦音[ʝ]、有声硬口蓋接近音[j]</p> <p>第10回無声硬口蓋破擦音[tʃ] 無声軟口蓋摩擦音[x]</p> <p>第11回鼻音：両唇鼻音[m]と歯茎鼻音[n]と硬口蓋鼻音[ɲ]</p> <p>第12回流音：歯茎たたき音[ʎ]と歯茎ふるえ音(顫動音)[r]</p> <p>第13回流音：歯茎側面接近音[l̪]と硬口蓋側面接近音[ɲ]</p> <p>第14回前期の総復習と期末試験</p> <p>第15回前期のまとめ スペイン語の歌、詩と音節構造</p>		
授業形態 ※	対面		

評価方法※	授業活動、リアクションペーパー…20% 演習課題、期末試験…50% ディクテーション…30%
評価基準	
テキスト	
注意事項	この表はシラバス情報の一部となります。履修を検討される方は、必ず本学のホームページ上 (https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/target/student/) からシラバス検索で該当科目を 確認をしてください。
授業シラバス	

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	神田外語大学	学部・学科名 ※	外国語学部
科目名※	現代ラテンアメリカ研究Ⅰ	単位数 ※	2
開講学期※	2024年度前期	曜日・時限 ※	木曜日 2時限
キャンパス※	幕張キャンパス	教室※	未決定
学修分野			
授業目的※	<p>①授業のテーマと概要 この授業ではラテンアメリカの社会と文化について学びます。</p> <p>②授業の目的と到達目標 ラテンアメリカの社会と文化について学び、その特質性と多様性を理解すること。</p>		
到達目標			
授業内容	<p>第1回イントロダクション 第2回食文化 第3回人種と階層社会 第4回先住民 第5回宗教（1）：キリスト教の普及 第6回宗教（2）：植民地時代以前の宗教とキリスト教の融合 第7回環境問題（1）：開発と環境保全 第8回環境問題（2）：先住民から見た環境保全 第9回政治と経済（1）：独立から寡頭支配体制まで 第10回政治と経済（2）：ポピュリズム 第11回政治と経済（3）：軍事政権 第12回政治と経済（4）：民政移管 第13回小説・映画 第14回音楽・絵画 第15回まとめ 発表の総評</p>		
授業形態※	対面		
評価方法※	授業への貢献度(42%)、発表（58%）		
評価基準			
テキスト			
注意事項	<p>この表はシラバス情報の一部となります。履修を検討される方は、必ず本学のホームページ上（https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/target/student/）からシラバス検索で該当科目を確認をしてください。</p>		
授業シラバス			

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	神田外語大学	学部・学科名 ※	外国語学部
科目名 ※	韓国語社会言語学 I	単位数 ※	2
開講学期 ※	2024年度前期	曜日・時限 ※	木曜日 2 時限
キャンパス ※	幕張キャンパス	教室 ※	未決定
学修分野			
授業目的 ※	<p>①授業のテーマと概要 本講義は、社会的文脈におかれた言語使用の実態を明らかにしようとする立場、つまり社会言語学的な観点に立って、現代韓国語を分析しようとするものです。</p> <p>②授業の目的と到達目標 皆さんは、韓国語が使用される国・地域における歴史、文化、社会、政治、経済の特質を理解するとともに、アジアのダイナミズムに目を向け、広い視野で共生のあり方を考察する力を身に付きます。(ディプロマ・ポリシー 3)</p>		
到達目標			
授業内容	<p>第1回・オリエンテーション(授業の目的・進め方について)、シラバス確認 ・社会言語学の領域と基本概念</p> <p>第2回・「韓国の若者言葉と俗語(356単語・表現)」その1: pp.1-15.</p> <p>第3回・「韓国の若者言葉と俗語(356単語・表現)」その2: pp.16-30.</p> <p>第4回・課題提出</p> <p>第5回・「韓国の若者言葉と俗語(356単語・表現)」その3: pp.31-45.</p> <p>第6回・「韓国の若者言葉と俗語(356単語・表現)」その4: pp.46-60.</p> <p>第7回・「社会階層による言語特性の違い」その1: 研究目的</p> <p>第8回・「社会階層による言語特性の違い」その2: 研究方法</p> <p>第9回・「社会階層による言語特性の違い」その3: 音声/語彙</p> <p>第10回・「社会階層による言語特性の違い」その4: 文章/談話</p> <p>第11回・「言語と性(gender)」その1: 研究史概観</p> <p>第12回・「言語と性(gender)」その2: 研究方法</p> <p>第13回・「言語と性(gender)」その3: 応答語/疑問形語尾/語頭濃音化/母音変異</p> <p>第14回・「言語と性(gender)」その4: 語彙/発話行為/性差別的言語現象</p> <p>第15回・期末試験とその解説</p>		
授業形態 ※	対面		
評価方法 ※	定期試験と授業への貢献度を考慮して総合的に評価します。		
評価基準			
テキスト			
注意事項	<p>この表はシラバス情報の一部となります。履修を検討される方は、必ず本学のホームページ上 (https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/target/student/) からシラバス検索で該当科目を確認をしてください。</p>		
授業シラバス			

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	帝京平成大学	学部・学科名 ※	健康医療スポーツ学部 医療スポーツ学科
科目名 ※	トレーニング科学	単位数 ※	2単位
開講学期 ※	2024年度前期	曜日・時限 ※	木曜日2限
キャンパス ※	千葉キャンパス	教室 ※	6-205
学修分野			
授業目的 ※	トレーニング科学は、健康増進から体力強化、スポーツ愛好家から競技者、子どもから高齢者まで、目的や年齢の異なる幅広い人を対象とした学問です。		
到達目標	運動専門家に必要とされるトレーニングの基礎知識を習得し、幅広い対象者に対してトレーニングの指導・助言ができるようになる。		
授業内容	<p>毎回テーマを設けて授業をします。</p> <p>また、学生が興味を持ったキーワードやテーマをもとに、グループワークやグループディスカッションを行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アスリートの競技力向上 ・スポーツ愛好家の健康増進 ・子どもの体力・運動能力向上 ・高齢者の介護予防 		
授業形態 ※	対面		
評価方法 ※	定期試験60%、レポート・受講態度など平常点40%とし、総合的に評価する。		
評価基準			
テキスト	基本的にはプリントを配布します。		
注意事項			
授業シラバス			

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	東京情報大学	学部・学科名 ※	総合情報学部・総合情報学科
科目名 ※	システム設計論 a	単位数 ※	2
開講学期 ※	2024年度前期	曜日・時限 ※	木曜・2限
キャンパス ※	東京情報大学	教室 ※	1号館3階301
学修分野			
授業目的 ※	インターネット時代の情報システムの設計・構築・管理法について理解を深め、Webベース情報システム（Webアプリケーション）を実現する設計・構築・管理法を習得する。まず、情報システムの設計思想の変遷を概説し、情報システムの重要性やシステム開発モデルを理解する。次に、インフラ設計やアプリケーション設計などの設計の流れやシステムの分析設計法について学ぶ。更に、身に付けた専門知識を社会で活用する技術力や、問題を発見し、論理的に整理する能力も身に付ける。		
到達目標	Webベース情報システム（Webアプリケーション）の設計・構築・管理法に関する標準化・基礎知識と最新技術動向を理解し、ユーザ要求分析からアプリケーション設計までの流れと情報処理技術を取得すると共に、実際の具体例に応用できる能力を養う。		
授業内容	01. ガイダンス 02. 情報システム概論 03. 情報システムの処理形態と変遷 04. ハードウェア進歩と情報システムの設計思想 05. クライアントサーバシステム 06. Web 3 階層型クライアントサーバシステム 07. システム設計・構築 08. テスト計画・設計・プロジェクト管理 09. インフラ設計 10. システム分析設計技法(1) 11. システム分析設計技法(2) 12. アプリケーション設計・構築 13. ユーザインタフェース設計・Webアプリケーション設計 14. 全体まとめ 15. 期末試験、解説		
授業形態 ※	・テキストを使用して、講義形式で行う。講義の理解状況を確認するため、毎回演習を実施する。 ・13回と14回には、システム設計の全体の流れに関する理解状況を評価するため、総合演習を実施し、レポート提出を課する		
評価方法 ※	課題、平常試験		
評価基準	課題（受講した回の内容に関する演習を実施し、理解度を確認する。）40% 平常試験（到達目標のユーザ要求分析からアプリケーション設計までのシステム設計に関する理解度を評価するための試験を実施する。）60%		

テキスト	「システム設計論」 布広永示 他 コロナ社(2017年改訂版発行)
注意事項	・ 講義内演習課題40%,平常試験60%で評価する。ただし、平常試験を欠席した場合は、成績評価は欠席となる。
授業シラバス	シラバス検索ページ https://j-port.tuis.ac.jp/uprx/up/pk/pky001/Pky00101.xhtml?guestlogin=Kmh006 ※開講年度学期（2024後期）、授業科目「コンピュータグラフィックス基礎」で検索

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	敬愛短期大学	学部・学科名 ※	現代子ども学科
科目名※	子ども家庭支援の心理学	単位数 ※	2
開講学期※	2024年度前期	曜日・時限 ※	木曜 2限
キャンパス※	稲毛キャンパス	教室※	後日通知
学修分野			
授業目的※	<p>保育者にとって、子どもへの支援のみならず保護者に対する支援は必要不可欠である。この科目は、発達段階と家族システム、親としての養育スタイルや多様な子育て環境を学び、保育者としての使命感を培い、コミュニケーションスキル、チームワークや課題解決力を身につけられるようにする。</p>		
到達目標			
授業内容			
授業形態※	<p>保育士資格を希望する者は必修である。講義形式である。 テキストやプリントにより基礎的な知識を身につけたうえで、学生が自身の経験や身近な出来事に振り返り、ディスカッション、ロールプレイング等を行っていく。概ね各回のワークシートなどが試験内容になる。</p>		
評価方法※	試験・発表、ワークシートや課題提出(60%)		
評価基準	試験・発表(40%)、ワークシートや課題提出(60%)		
テキスト	『子ども家庭支援の心理学 演習ブック』松本峰雄監修		
注意事項			
授業シラバス	<p>本学ポータルサイト「Keiai Campus Navigator」で確認すること。 https://kcn.u-keiai.ac.jp/uprx/ トップ画面の「シラバス照会」から検索する。</p>		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	神田外語大学	学部・学科名 ※	外国語学部
科目名 ※	児童英語教育論A	単位数 ※	4
開講学期 ※	2024年度前期	曜日・時限 ※	月曜日 3時限 木曜日 3時限 (2コマセットの授業)
キャンパス ※	幕張キャンパス	教室 ※	未決定
学修分野			
授業目的 ※	この講義は将来的に早期英語学習者を対象とする英語教師になるために、必要な理論や教育現場での実践活動を概観し、模擬授業などの実技演習にも取り組む。特に我が国における早期英語教育の全体像と新学習指導要領における小学校外国語活動と外国語科を理解し、自ら授業案を立案・指導できるようになるための入門基礎科目として関連内容を幅広く扱う。		
到達目標			
授業内容	<p>第1回講座内容の紹介、成績評価方法、レポート課題発表 第1章：小学校における英語教育－導入の経緯、現状と展望 ①</p> <p>第2回第1章：小学校における英語教育－導入の経緯、現状と展望 ② 新学習指導要領を紐解く、グループワーク①</p> <p>第3回第1章：小学校における英語教育－導入の経緯、現状と展望 ③ 新学習指導要領を紐解く、クイズ、グループワーク②</p> <p>第4回第2章：言語習得と関連領域 ① 子どもの言語獲得の過程 第二言語習得論 関連領域からの理論的枠組み① 学習理論、生成文法、相互作用論 実践体験その1：子どもの歌、TPR</p> <p>第5回第2章：言語習得と関連領域 ② 第二言語習得論 関連領域からの理論的枠組み② インプットとアウトプット理論、インタラクション仮説、クイズ 実践体験その2：絵本の読み聞かせ①</p> <p>第6回第2章：言語習得と関連領域 ③ 第二言語習得論 関連領域からの理論的枠組み③ CPH、気付きの理論、ピアジェ、ヴィゴツキー、クイズ 実践体験その2：絵本の読み聞かせ②</p> <p>第7回第3章：基本的な外国語教授法 ナチュラルアプローチ、CLT、他教科連携①、クイズ 実践体験その3：ティームティーチング①</p> <p>第8回第3章：基本的な外国語教授法 ナチュラルアプローチ、CLT、他教科連携②、クイズ</p> <p>第9回実践体験その3：ティームティーチング②</p> <p>第10回第3章：基本的な外国語教授法 絵本やお話を使った外国語指導①</p> <p>第11回第3章：基本的な外国語教授法 絵本やお話を使った外国語指導②</p> <p>第12回第4章：国際理解教育と英語教育 第13章：指導の基本と留意ポイント</p>		

授業内容	第13回第9章：クラスルーム・イングリッシュの活用 スモールトーク演習①
	第14回第9章：クラスルーム・イングリッシュの活用 スモールトーク演習②
	第15回第11章：教材の使い方・選び方と開発方法：教材の作成・教具についての知識① グループワーク
	第16回第11章：教材の使い方・選び方と開発方法：教材の作成・教具についての知識② グループワーク
	第17回第11章：教材の使い方・選び方と開発方法：音声指導 歌やチャンツの使い方、演習①
	第18回第11章：教材の使い方・選び方と開発方法：音声指導 歌やチャンツの使い方、演習②
	第19回第14章：指導の実際：単元計画、授業の組み立て方 『We can!』を使って模擬授業案を検討する：グループワーク①
	第20回第14章：指導の実際：単元計画、授業の組み立て方 『We can!』を使って模擬授業案を検討する：グループワーク②
	第21回第14章：指導の実際：単元計画、授業の組み立て方 『We can!』を使って模擬授業案を検討する：グループワーク③
	第22回第15章：文字指導のあり方① 模擬授業準備、実践演習、グループワーク④
	第23回第15章：文字指導のあり方② 模擬授業準備、実践演習、グループワーク⑤
	第24回教材作成、実践演習、グループワーク⑥
	第25回模擬授業に向けての技術的指導、実践演習、グループワーク⑦
	第26回模擬授業①チームティーチング、考察、フィードバック
	第27回模擬授業②チームティーチング、考察、フィードバック
第28回模擬授業③チームティーチング、考察、フィードバック	
第29回模擬授業実践の振り返りと理論の裏付け	
第30回実践と理論の結びつけ、授業のまとめ	
授業形態※	対面
評価方法※	レポート・クイズ・振り返り 30% 実技演習 40% 授業への貢献 30% レポート・クイズ、授業デモ、授業への貢献度を考慮して総合的に評価する。
評価基準	
テキスト	
注意事項	この表はシラバス情報の一部となります。履修を検討される方は、必ず本学のホームページ上 (https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/target/student/) からシラバス検索で該当科目を確認をしてください。
授業シラバス	

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	神田外語大学	学部・学科名 ※	外国語学部
科目名 ※	日米関係論Ⅰ	単位数 ※	2
開講学期 ※	2024年度前期	曜日・時限 ※	木曜日 3時限
キャンパス ※	幕張キャンパス	教室 ※	未決定
学修分野			
授業目的 ※	<p>< 授業の概要 ></p> <p>本授業の目的は、日米関係について理解を深めるものである。「日米関係論Ⅰ」では幕末から太平洋戦争までの期間を扱い、歴史学、国際政治学の観点から日米関係について考察する。具体的に受講生は①「帝国」としての日本とアメリカ、②国際主義の黎明、③太平洋戦争、以上3つのテーマについて、講義、リーディング課題、プレゼンテーション、ディスカッションを通して関心と理解を広げ、深めていく。</p> <p>< 到達目標 ></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「帝国主義」、「国際主義」をキーワードに、19世紀から太平洋戦争までの日米関係を各時代の特徴を明確にしなが、論じることができる。 2. 国際主義が国際政治上に現れた経緯と、その内実について説明することができる。 3. 太平洋戦争とはいかなるものだったのか、様々なアクターの視点から理解することができる。 		
到達目標			
授業内容	<p>第1回 イントロダクション</p> <p>第2回 幕末期の日米関係</p> <p>第3回 マシュー・ペリー</p> <p>第4回 【オンライン】課題</p> <p>第5回 近代国家の樹立の目標と日米関係</p> <p>第6回 転換期の日米関係</p> <p>第7回 ワシントン体制</p> <p>第8回 新渡戸稲造、幣原喜重郎</p> <p>第9回 日本の戦争とアメリカの不承認</p> <p>第10回 日系アメリカ人</p> <p>第11回 広田弘毅</p> <p>第12回 日米学生会議</p> <p>第13回 ジョセフ・グルー</p> <p>第14回 日米戦争と日本占領</p> <p>第15回 総括</p>		
授業形態 ※	対面		

評価方法※	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への参加（リーディング、プレゼンテーション、ディスカッション、授業内での発言等）：40ポイント ・ 小テスト、課題：30ポイント ・ 最終レポート：30ポイント 合計：100ポイント
評価基準	
テキスト	
注意事項	<p style="color: red;">この表はシラバス情報の一部となります。履修を検討される方は、必ず本学のホームページ上（https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/target/student/）からシラバス検索で該当科目を確認をしてください。</p>
授業シラバス	

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	神田外語大学	学部・学科名 ※	外国語学部
科目名 ※	現代スペイン文学 I	単位数 ※	2
開講学期 ※	2024年度前期	曜日・時限 ※	木曜日 3時限
キャンパス ※	幕張キャンパス	教室 ※	未決定
学修分野			
授業目的 ※	<p>授業のテーマと概要</p> <p>本講義では中世から19世紀までのスペインの重要な文学作品について学びます。取り上げる作品については、日本語に翻訳されたものを読み、映画などの映像を見て理解を深めます。</p> <p>授業の目的と到達目標</p> <p>スペイン文学の歴史を学び、スペイン文化の特徴と多様性を理解する。(DP3)</p> <p>スペイン文学における、歴代作品の基本的な特徴を知る</p> <p>各時代の優れた著者についてと、その作品について知る</p> <p>授業で分析する作品の特徴についての理解を深める</p> <p>文学作品に適切な注釈をつける方法を学ぶこと</p> <p>スペイン文学について語るうえで、必要な基礎知識を身に着けること</p>		
到達目標			
授業内容	<p>第1回Introducción a la asignatura / オリエンテーション、シラバス確認</p> <p>第2回La literatura medieval española / 中世スペイン文学</p> <p>第3回Análisis del "Cantar de mio Cid" / 『わがシッドの歌』の分析</p> <p>第4回Análisis de El conde Lucanor / 『ルカノール伯爵』の分析</p> <p>第5回Análisis de "La Celestina" / 『ラ・セレスティーナ』の分析</p> <p>第6回La literatura española del Siglo de Oro / スペイン黄金世紀文学</p> <p>第7回Análisis del "Lazarillo de Tormes" / 『ラサリーリョ・デ・トルメスの生涯』の分析</p> <p>第8回Análisis de "Fuenteovejuna" / 『フエンテ・オベフーナ』の分析</p> <p>第9回Análisis de "Don Quijote de la Mancha" / 『ドン・キホーテ・デ・ラ・マンチャ』の分析</p> <p>第10回La literatura española del Romanticismo / スペインロマン主義文学</p> <p>第11回Análisis de "Don Juan Tenorio" / 『ドン・ファン・テノーリオ』の分析</p> <p>第12回Análisis de las "Leyendas" / 『伝説集』の分析</p> <p>第13回La literatura española del Realismo y Naturalismo / スペイン写実主義文学</p> <p>第14回Análisis de "Fortunata y Jacinta" / 『フォルトゥナータとハシクタ』の分析</p> <p>第15回Análisis de "La Regenta" y examen final / 『ラ・レヘンタ』の分析と学期末試験</p>		
授業形態 ※	対面		

評価方法※	レポート40% 試験 [選択問題] 40% 授業への貢献 20%
評価基準	
テキスト	
注意事項	この表はシラバス情報の一部となります。履修を検討される方は、必ず本学のホームページ上 (https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/target/student/) からシラバス検索で該当科目を確認をしてください。
授業シラバス	

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	千葉経済大学短期大学部	学部・学科名 ※	こども学科
科目名 ※	健康科学概論		単位数 ※ 2
開講学期 ※	2024年度前期	曜日・時限 ※	木曜・3時限 (α h) 4時限 (β h)
キャンパス ※	千葉経済大学短期大学部	教室 ※	204
学修分野	卒業認定・学位授与の方針中の基礎科目に位置づけられる。		
授業目的 ※	より望ましいライフスタイルを獲得するための知識を学びます。 特に、青年期というライフステージに必要な健康に関する知識を学んでいきます。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・健康とは何か?どのような状態をさすのかを理解する。 ・食事、運動(含む外傷、予防)、睡眠等に関する正しい知識を獲得する。 ・健康なライフスタイルを獲得するための様々な知識を獲得する。 		
授業内容	<p>第1回 オリエンテーション、健康とは/W.H.O.の世界保健憲章(前文)に見る「健康」</p> <p>第2回 「体育」の定義/「知育」「徳育」「体育」と三育主義。</p> <p>第3回 「体力」の定義/防衛体力と行動体力、体力の構成要素</p> <p>第4回 様々な指数(1)/BMIによって何が評価できるのか。指数を算定・評価します</p> <p>第5回 様々な指数(2)/カウプ指数、ローレル指数によって何が評価できるのか。指数・評価を算定します</p> <p>第6回 様々な指数(3)/ブリンクマン指数によって何が評価できるのか。指数算定・評価します</p> <p>第7回 水分補給量/生活やスポーツ時に必要な水分量を算定します</p> <p>第8回 身体の構造と機能(1)/骨、関節、筋肉の構造と機能について学びます</p> <p>第9回 身体の構造と機能(2)/神経系の働き、乳幼児期における神経系の発達について学びます。呼吸器の働きについて学びます</p> <p>第10回 運動(スポーツ)外傷(1)/運動(スポーツ)時の外傷における救急処置について学びます</p> <p>第11回 運動(スポーツ)外傷(2)/運動(スポーツ)時の外傷における救急処置について学びます</p> <p>第12回 感染症/感染症の種類、感染経路、感染症予防の手段について学びます</p> <p>第13回 健康な生活設計/薬物、アルコール、たばこ健康について学びます</p> <p>第14回 ストレスと健康/ストレスの身体への反応、運動とストレスの関係について学びます</p> <p>第15回 まとめ/授業のまとめと振り返りを行います</p>		
授業形態 ※			
評価方法 ※	小テスト(40%)、提出物・課題(40%)、授業への取り組み(20%)		
評価基準			
テキスト	指定なし		
注意事項			
授業シラバス	https://syllabus.cku.ac.jp/Syllabus/SyllabusConfirm.asp?cdsl=3200&nendo=2024		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名※	帝京平成大学	学部・学科名 ※	健康医療スポーツ学部 医療スポーツ学科
科目名※	スポーツ社会学	単位数 ※	2単位
開講学期※	2024年度前期	曜日・時限 ※	木曜日3限
キャンパス※	千葉キャンパス	教室※	9-302
学修分野			
授業目的※	本授業は、近代社会におけるスポーツの特徴や意義・役割について概説する。またこれからのスポーツ振興のあり方や方法についても概説する。		
到達目標	スポーツを社会現象として捉え、社会との関係からスポーツの特徴やあり方について説明できるようになる。さらに地域のスポーツ振興についても興味を持てるようになる。		
授業内容	本授業では、まずスポーツの概念や歴史から学ぶ。さらにスポーツ振興に重要な役割を果たす総合型地域スポーツクラブを通じて地域のスポーツ振興についても学ぶ。 また、スポーツ指導における法的責任や人権、政治、資格を通じてこれからのスポーツ振興について学ぶ。 授業の後半は、講義だけでなくグループワークを中心に行う。		
授業形態※	対面		
評価方法※	毎回の授業内小レポートとmanabaを活用した授業外学習（50%）及び定期試験に代わる授業外レポート（50%）とし、総合的に評価する。		
評価基準			
テキスト	指定テキストは特にない。必要な教材は随時配付もしくは紹介する。		
注意事項			
授業シラバス			

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	敬愛短期大学	学部・学科名 ※	現代子ども学科
科目名※	特別支援教育	単位数 ※	2
開講学期※	2024年度前期	曜日・時限 ※	木曜 3限
キャンパス※	稲毛キャンパス	教室※	後日通知
学修分野			
授業目的※	保育者（保育士、幼稚園教諭、保育教諭）として、特に障害児保育の理念や歴史的な変遷、様々な障害特性、心身の発達等に応じた援助や配慮、障害を持つ子どもやその他の特別な配慮を要する子どもの保育における計画の作成や援助の具体的な方法、関係機関との連携・協働等を理解する。		
到達目標			
授業内容			
授業形態※	講義形式を中心とするが、ワークシートを使用し、自身の学びの確認ができるようにする。また、DVD を活用した授業や疑似体験も盛り込み、可能な限り「障害をもつこと」を学生がイメージできるような授業展開を実施する。授業内の学びの確認テストを実施する。ワークシートは次の授業回到返する。		
評価方法※	ワークシート、授業内テスト、その他授業への取り組みを含め総合的に判断する。		
評価基準	ワークシート(50%)、授業内テスト(50%)		
テキスト	毎回の授業時に配布する資料を使用して授業を行う。		
注意事項			
授業シラバス	本学ポータルサイト「Keiai Campus Navigator」で確認すること。 https://kcn.u-keiai.ac.jp/uprx/ トップ画面の「シラバス照会」から検索する。		

※は必須記入事項

大学名 ※	敬愛短期大学	学部・学科名 ※	現代子ども学科
科目名 ※	社会的養護 I	単位数 ※	2
開講学期 ※	2024年度前期	曜日・時限 ※	木曜 3限
キャンパス ※	稲毛キャンパス	教室 ※	後日通知
学修分野			
授業目的 ※	わが国における社会的養護の理念と方向性を把握し、現在実施されている社会的養護の意義を理解する。		
到達目標			
授業内容	<p>護における保育士等の倫理と責務、社会的養護の制度と法体系、社会的養護の仕組みと実施体系、社会的養護の対象、家庭養護と施設養護、社会的養護に関わる専門職、社会的養護に関する社会的状況、施設等の運営管理、虐待防止に関わる児童等の虐待防止、社会的養護と地域福祉</p>		
授業形態 ※	<p>基本的に講義形式で行うとともに、施設の様子について視聴覚資料を通して具体的に理解する。視聴覚資料を用いながら、社会的養護における施設養護の実際形態を具体的にイメージすることを導入目標として、社会的養護の必要性や現状における課題を捕捉し、そこでの児童をめぐる社会的養護の課題を理解する。</p>		
評価方法 ※	試験、授業への積極的な参加姿勢、レポート・課題		
評価基準	試験60%、授業への積極的な参加姿勢20%、レポート・課題提出20%		
テキスト	<p>松本峰雄編『子どもの養護』建帛社 福祉小六法編集委員会編『福祉小六法』みらい</p>		
注意事項			
授業シラバス	<p>本学ポータルサイト「Keiai Campus Navigator」で確認すること。 https://kcn.u-keiai.ac.jp/uprx/ トップ画面の「シラバス照会」から検索する。</p>		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	神田外語大学	学部・学科名 ※	外国語学部
科目名※	東南アジア史Ⅰ	単位数 ※	2
開講学期※	2024年度前期	曜日・時限 ※	木曜日 5時限
キャンパス※	幕張キャンパス	教室※	未決定
学修分野			
授業目的※	<p>①授業のテーマと概要： 本講義では、古くからさまざまなヒト、モノ、情報が交錯するコスモポリタンシティ（国際都市）であった東南アジア地域の歴史に焦点を当て、異質な人々同士が出会い、モノや情報を交換し、技術を学び、伝えながら、お互いに良好な（時として野蛮な）関係を取り結んでいったことについて、じっくり考え、議論していきたいと考えています。 前期の東南アジア史Ⅰでは、前近代東南アジア海域に跋扈した「海賊」に焦点を当てます。 映像資料（映画、ドラマ）や文献資料（小説、学術論文）を積極的に利用しながら、資料から見えてくる「事実」を学び、その意味を解き明かすとともに、資料からは十分に見えてこない部分の「事実」も想像しながら、「海賊」の存在の表と裏に迫っていきましょう。</p> <p>②授業の目的と到達目標： 日本や世界との関わりをふまえたうえで、東南アジアの人々が歩んできた歴史を深く理解するDP(3)</p>		
到達目標			
授業内容	<p>第1回イントロダクション 第2回地域概念としての「東南アジア」 第3回前近代東南アジアの海と「海に生きる人たち」①講読 第4回前近代東南アジアの海と「海に生きる人たち」②ディスカッション 第5回コスモポリタンシティとしての港市国家①講読 第6回コスモポリタンシティとしての港市国家②ディスカッション 第7回大航海時代と船乗りたち①講読 第8回大航海時代と船乗りたち②ディスカッション 第9回西洋社会から東南アジアへの「まなざし」①講読 第10回西洋社会から東南アジアへの「まなざし」②ディスカッション 第11回「東インド会社」とはなにものだったのか？①講読 第12回「東インド会社」とはなにものだったのか？②ディスカッション 第13回日本の「鎖国」を考えてみる①講読 第14回日本の「鎖国」を考えてみる②ディスカッション 第15回期末レポートへのフィードバックと発展学習</p>		
授業形態※	対面		

評価方法※	授業への貢献度（グループディスカッションおよびプレゼンテーションでのプレゼンスを含む）、リアクションペーパー、期末レポートの内容をもとに、総合的に評価する。
評価基準	
テキスト	
注意事項	この表はシラバス情報の一部となります。履修を検討される方は、必ず本学のホームページ上（https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/target/student/）からシラバス検索で該当科目を確認をしてください。
授業シラバス	

※は必須記入事項